

静浦地区の皆さまへ

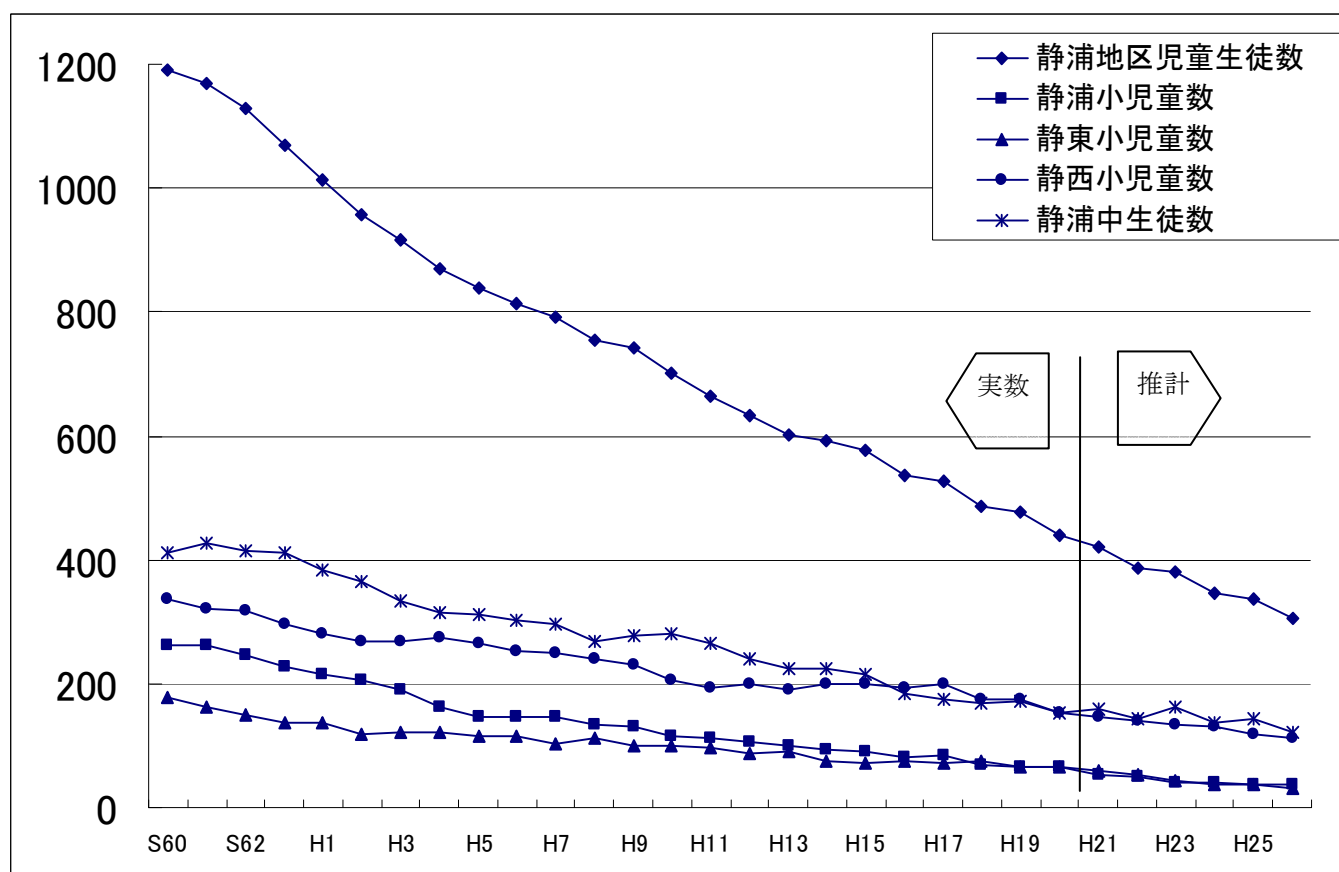
教育委員会では、昨年「静浦地区小中一貫校検討委員会」より提出された提言に基づき、小中一貫校の設置に向け検討を行っています。また、小中一貫校の設置に先行して、小学校での複式学級の発生を避けるための小学校の統合と中学校の早期移転に取り組んでいきます。

1. これまでの経緯

静浦地区では、少子化に伴い児童生徒が減少しており、静浦小、静浦東小で数年後には複式学級の発生が予想されます。また、中学校は山の中腹にあるため、通学路の落石や崖崩れなど、生徒への安全対策が課題となっています。

このような状況の中、静浦地区の自治会やPTAから小中一貫校設置の要望を受け、検討委員会で小中一貫校設置に向けて検討が行われ、「静浦地区小中一貫校に関する提言」にまとめられました。

静浦地区の児童生徒数の推移



※ 複式学級：静岡県基準では、2学年合わせての児童生徒数が14人以下の場合（ただし、1年を含む場合は7人以下）、2つの学年を1つの学級として編制することとされています。複式学級では、1人の先生が2つの学年の授業を同時に行うことになります。

2. 検討委員会から提出された「静浦地区小中一貫校に関する提言」の主な内容

- (1) 静浦中学校の根本的な安全対策のため、一刻も早く移転することが必要である。
- (2) 小中一貫校にすることで、小学校の児童数減少と中学校の立地問題を併せて解決できるとともに、より充実した教育を行うことができる。
- (3) 小中一貫教育を充実させていくためには、現在の3つの小学校と中学校を統合し一体化させる必要があり、学校設置場所は、静浦の中間地点である大久保周辺が望ましい。

3. 今後の計画

静浦中学校をできるだけ早く移転するとともに、小学校での複式学級発生を避けるために

- (1) 平成 22 年4月に静浦地区の3つの小学校を現在の静浦小学校に統合します。
- (2) 平成 22 年度の夏休み以後に、静浦中学校を現在の静浦西小学校に移転します。
- (3) 学校のあり方についての検討を進め、大久保周辺に小中一貫校を設置します。

4. 小中一貫教育について

小中一貫教育には、次のようなメリットがあるとされています。

- (1) 中一ギャップの解消
 - ・小学校から中学校への学習面、生活面での急激な変化が緩和される。
- (2) 子どもの交流
 - ・小学校1年生から中学校3年生までの幅広い異年齢集団による、いろいろな活動を行うことができるため、たくましい心と体、思いやりの心や責任感を育む効果が期待できる。
- (3) 教員の相互乗り入れ
 - ・小中学校の小規模化に伴う教員の配置数の減少に対し、教員の相互乗り入れなどにより、その影響を緩和でき、また教科の専門性が確保しやすい。
- (4) 子どもの学びの連続
 - ・9年間を通して、小学校教員と中学校教員が一体となって一人の子どもを指導できることで、発達段階に応じた計画的・継続的な教科指導及び生活指導がしやすくなる。
 - ・小学校から教科担任制を導入することが可能となり、小中学校間における教科(算数から数学、英語など)の変化に対応しやすくなる。

5. 今後の進め方

小中一貫校の設置や小学校の先行統合及び中学校の移転を進めるための具体的な課題に対して、自治会、PTA、学校の関係者及び有識者からなる「静浦地区小中一貫校推進委員会」を設置し、検討していきます。

その内容については、保護者や地域の皆様に対し、随時お知らせしていく予定です。